

會 告

▲其後の入會者左の如し

宇都宮市馬場町二十六

贊 石田 富造

安房國北條町六軒町

贊 白井 保格

熊本縣葦北郡水俣村

贊 德 永 正

神奈川縣小田原早川口鶴屋方

贊 佐 藤 和 治

▲贊助會員鈴木建二郎氏は大阪市東區京橋

二丁目二番地へ同吉田喜藏氏は東京赤坂區

福吉町一、伊勢忠支店内へ何れも移轉せら

れたり

□追々寫生の好時節と相成候、同時に寫生家にとりて大々の禁物なる毒虫が横行致し始め申候、殊に困却するはブヨ若くはブトと稱する小虫にて、手といはず脚といはず攻撃し來り、然も厄介なるは眼の先にてク

ル／＼廻るとに候。

□毒虫の豫防法としては、手には手袋を用ひ、脚は脚絆に足袋といふ仕度を致候へはよろしく候、ある人は夏季用として、白カナキン一重の薄き脚絆を造らせ、寫生の時丈け用ゐ居候。

□曾て蛇嫌ひの人が、安線香を自己の身邊に立て、攻撃を防ぎし様本誌に投書有之候、線香を身の廻りに立つるはチト變なものに候、煙草を燻するは一時の功あるも永續出來ぬものに候。

□モチグサと稱する草の汁を手足に塗り置けば毒虫は止まらず、又刺れし跡にも功ありとの事に候、アルボース石鹼もよしとの事に候。

□目の前でクル／＼舞をする奴は、近頃賣つてゐる頭丈げの蚊帳を用ゐるより他に詮方あるまじく候。

□讀者諸君にして、何かよき豫防法の御實験、又は御考案有之候はゞ、自他の爲め御一報下され度希望致候。

□次號には新歸朝者吉田博氏令妹藤尾嬢の寫生されたる西班牙アルハンバラの水彩畫を原色版にして掲出可致候。

□猶右の圖に添へて吉田博氏のアルハンバラに關する談話を乞ふて讀者に御報可致候。

□東京勸業博覽會開會に付御出京の本會々員及び地方讀者諸君は一度水彩畫講習所へ御立寄被下授業の有様等御一覽被下度同所は毎日曜日開講致居候。

編者より

◎長野小林氏へ 色鉛筆は何れも面白し、田を畫ける方前景一工風ありたし◎岡本氏へ 雪景はあまりに硬し、一々色紙を切抜て貼つたやうなり、樹木はよし。鉛筆畫は線に變化なし◎海老名氏へ 色彩華美に過く、モット落ついた色は出ませんか◎吉井氏へ 感じはよく出たり色彩に變化なきは惜むべし◎高橋氏へ 岩見川は色彩貧し、いくら雪景にても今少し變化を見出されたり、和田村は人物小なり、この位置にあるなら少くとも倍大になられば比例がとれぬ◎北海道小林氏へ 競技會は四月開會につき四月中旬頃なら福壽艸位ひは開きそやうなものですね。